

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100763		
法人名	株式会社 春風会		
事業所名	春風会きしグループホーム	【ユニット名: 1F】	
所在地	和歌山市栄谷460番1		
自己評価作成日	平成27年1月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の南側が全て広い庭となっており、散歩を楽しまれたり、季節の草花や、野菜を一緒に育て、収穫しています。又気候の良い時期には、併設しているデイサービスとの合同にてバーベキューや、オープンテラスでお茶を楽しまれたり日々季節を感じながら過ごされています。お食事は料理を得意とする介護職員が中心となり、家庭的な中にも盛り付けや、食べやすさ等を大切にし優しいお料理が自慢となっています。運営推進会議や家族会でもお味見をして頂き好評を頂いています。ご家族やご友人の面会も多く、居心地の良い空間を提供出来るよう、職員は常に、ご自宅にお客様をお招きするような心をもってお迎えするようにしています。グループホームにご入居されることで家族間の新たな関わりが築けるような支援をと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成27年2月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年1月に開設されたグループホームであるが、以前の場所でのデイサービス事業から継続して地域住民や自治会との協力関係が築けており、理解が得られている。建物内には足湯のコーナーも設置され、地域住民に開放する日も設けている。居心地よく、くつろげる空間づくりが随所にみられ、居間から日当たりの良い広い庭や畑に出て季節を感じることもできる。利用者が、その人らしく暮らせる居心地のよい環境が提供できるよう、一人ひとりの気持ちに寄り添う支援を心掛けるとともに、入居時からの家族との新たな関係作りにも取り組み、家族の思いも大切にしながら利用者の生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回行われているカンファレンスにおいても理念に基づいた春風会憲章を唱和し、全職員が理念に基づいた支援を行っている 又1Fユニット入口にも理念を掲げている。	法人の「仁慈絡歎」という理念を事業所理念と共通して掲げ、管理者と職員は利用者と共に喜びあえるように、今、本人ができることを見極め、生きる力を引き出せる支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一斉溝清掃に参加しています。移動販売をご近所の方と一緒に利用していたり、又ご近所の方が施設を利用して頂けるような足湯の開放を行っています。	町内の清掃活動等にも参加し、また、事業所の行事の際にはポスターを近隣の随所に掲示し、地域の人々とのつながりを持つことができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでもご相談にお寄り頂けるよう、呼びかけを行っています。玄関先や自治会館・ご近所の喫茶店等にもパンフレットを掲示させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度行っており、施設での取り組み近況報告を行っています又お食事会として日頃のお食事体験して頂きました。参加者は自治会役員、地域包括センター、主治医、ご家族ご意見を頂戴しています。	運営推進会議は、2か月に1度開催されていて、事業所の報告と行事等、今後の取り組みについての話し合いをしている。	話し合いのテーマを設けるなど、会議の内容や進行をより工夫することで、多くの意見を集めて運営に活用していることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターから運営推進会議に参加頂いている。貴志支所には運営推進会議の案内状をお持ちしている。	市の職員との直接的な関わりはあまりないが、2か月に1度は案内を持って訪れ、より良い関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修、外部研修等を通じて常に『身体拘束をしないケア』に取り組んでいる、玄関扉や各ユニットへの入り口についても無施錠にし、併設しているデイサービスにも自由に出かけている。	利用者が自由に過ごせるよう安全面に配慮して見守り、管理者と職員一人ひとりが何気ない言葉の拘束にも気をつけて、利用者の気持ちに寄り添う支援を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様研修の機会を確保し常に職員が意識を持って不適切な言動しない・させない・このことを大切にしている。		

【事業所名】春風会きしグループホーム【ユニット名：1F】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成研修に参加し、カンファレンスにて説明し職員間で共有している。又ご入居者で後見人制度を利用されている方には後見人との連携に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時やご契約時には、十分な説明をし、ご質問にはご理解頂けるまで丁寧な説明を心がけて行っています。改定等についても説明しご理解を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族からご意見を頂いたり、家族会の開催や訪問時にご意見、ご要望を頂きカンファレンスにて職員間で検討し改善している。	事業所便りを毎月発行して、行事や利用者の生活の様子を知らせている。家族と利用者が一緒に楽しめる家族会の行事を年に2～3回開催し、家族の声を聞く機会を多く持つよう取り組んでいる。	家族会の持ち方やアンケートの実施などをさらに工夫して、より多くの家族の意見や要望を引き出して運営に反映できることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行われる本部会議において代表より運営について報告を受け、各事業所の状況や問題点を話し合いを行い、内容を事業所に持ち帰りカンファレンスにて職員に報告している。	月2回のカンファレンスには、ほぼ全員が出席し意見を出し合っている。管理者は事業所の代表者として、月に1度の法人全体の会議に出席している。管理者は、時には職員と1対1で話す機会も作るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表と職員との個別面談を実施し、職員の意見を取り入れ職場環境・条件の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加出来るような仕組みを整えている。事例発表の機会、GH全国大会への参加。内容をカンファレンスで発表し職員間で共有して行く。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	公益法人日本認知症グループホーム協会に加盟しており、外部研修や地域の勉強会等にも積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居までの経過を考慮し、ご本人の想いに沿いながら少して早く安心して頂けるように信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話しをお聞きし、その想いにも十分対応出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のお話しを聞かせて頂き、何が必要なのか、どのような支援が必要なのかを考えながら状況に応じた支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干しや食器洗い等日常生活を大切にし、その中で職員と一緒にすることで、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者のご様子をお伝えし、ご相談し、一緒に支援の方法を検討しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者のご家族・友人・ご近所の方の面会が途切れないよう訪ねて来やすい雰囲気や環境を整えている。又ご家族との外出も頻繁に行われている。	家族や友人が訪問しやすい雰囲気になるよう配慮している。関係が継続できるよう家族にも働きかけ、外出などの協力が得られている。	外出や、訪問を受けたりすることが困難な利用者には、写真を見ながら親しい人や以前の生活の話聞くなど、会話の中でも馴染みの関係に触れることができるなどの工夫が望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間も常に交流し、ご入居者同士が関わりを持てるよう職員が間に入り関係性を築いている。ご入居者が孤立しないよう支援を行っている		

【事業所名】春風会きしグループホーム【ユニット名：1F】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族からは、その後も近況報告を頂いたり、お寄り頂くなどし交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でその方の思いやご希望を把握することに努めています。	担当者を決め、日々利用者の話を聞いたり、かかわることで、一人ひとりの思いを知り、1か月に2度のカンファレンスで管理者と職員が報告を聞いて話し合い情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者やご家族からの情報又関わりの中で新たな情報の把握にも努め、内容を職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表に個別の生活記録、又その方を観察し、気づきも記入しする、その内容を職員間で共有する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでご入居者の状態やご様子を職員間で共有し、どのような支援が必要かを検討し、ご本人・ご家族にも相談しながら作成するように努めている。	入居時に本人や家族の意向を取り入れて計画を作成している。毎月2回カンファレンスを開いているが、介護計画は入居時・入退院時・利用者に大きな変化があったときにのみ新たに作成している。	より良いケアが提供できるようケアプランを修正し活用しながら、職員もより成長していけるよう取り組むことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・日課表・申し送り等を職員間で共有している、問題点や気づき等も申し送りノートに記入し介護計画を作成するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お孫様の結婚式に参加させたいとのご家族の意向に沿えるよう、職員が同行することで可能となりました日々お一人お一人のニーズに柔軟な対応を行っています。		

【事業所名】春風会きしグループホーム【ユニット名：1F】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方の訪問や、中学校合唱部との関わりご近所の美容室・喫茶店・スーパー等ご近所との関わりを持って豊かな暮らしを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のご家族・ご本人の意向をお聞きし、主治医として関わって頂いています。現在往診対応して下さる4名の先生と2名の専門医の先生方との連携にて適切に医療を受けて頂いています。	入居者それぞれのかかりつけ医、事業所の協力医、認知症の専門医との連携を取り、利用者一人ひとりに合った支援をしている。家族と連絡を取って、受診に管理者が付き添う場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の変化や観察し気づいた事をどの様な些細なことも看護師に報告し必要に応じて対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族と共に病院関係者と連携を持ち病院内カンファレンスに立会い退院後のケアについて助言頂いている。又日頃から地域連携室との情報交換を行う等関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、ご家族・ご本人の終末期への意向を伺いグループホームでの可能な対応についても説明している。必要に応じて再確認。主治医・訪問看護等とのチーム作りに努めている。	主治医の意見を聞き、ご家族の意向を大切に事業所で、できる限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しているカンファレンスにおいて緊急時に対応について確認し、各ユニットに手順を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご入居者参加にて事業所合同の避難訓練を実施している。災害時には地域の拠点となるように、発電機・井戸水・備蓄品を整え自社にて災害対策衛生委員会を設置している。	災害対策委員会を年に2回行っており、自治会の協力も得られている。現在、事業所を災害時地域住民を受け入れる第2避難所として地区に提供できるよう申請している。	夜間を想定した避難訓練の実施などを重ね、あらゆる状況での対処法を身につけ、災害時の利用者の安全が確保できることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員がご入居者人格の尊重を大切に、プライバシーを守り、さりげなく寄り添えるよう心掛けている。	職員は利用者の、その時々のお気持ちや思いを大切に汲み取れるように日々努力をし、羞恥心やプライドに配慮した接し方を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の想いや意志を引き出せるよう傾聴することを大切にしています。その想いの応えられるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、ご気分に沿った柔軟な対応を心掛けています。 ご本人のペースにて過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご近所の美容室が訪問に来て下さっています。又ご家族の支援を受け行きつけの美容室や理髪店に行かれています。お洋服もお好みの品を選ばれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方が有する力を発揮出来るよう、職員と一緒に食器洗いや、盛り付け等無理なく行って頂けるように支援をしている。	調理専従の職員が厨房で作った食事を提供しているが、下ごしらえなど、利用者ができることを手伝うこともある。職員も一緒にテーブルにつき、同じ食事を利用者とともに楽しめる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事をし、食事量、や摂取状況を把握し記入する。個人に合わせた必要な支援を行っている。1日の水分量も記入し、夜間も水分補給して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の嚥下体操を必ず実施し、口腔機能の衰えがあるかたには、歯科医指導にて個別の食前口腔ケア実施・毎食後は口腔ケア実施しています。		

【事業所名】春風会きしグループホーム【ユニット名：1F】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別対応をしており、尿意、便意が無い方にも、排泄パターンを把握し成るべくトイレにて排泄して頂けるよう取り組んでいます。	排泄のパターンを把握し、本人の意向を大切に一人ひとりに合った、さりげない対応と支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を作成・活用しながら、水分補給、乳製品の摂取を行っている。 主治医指示にてお薬にて排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の時間はありますが、外出したり、面会に来られてる場合や、入浴を嫌がられたりすれば、時間をあけ入って頂くよう支援しています。カットの後も必ず入浴し洗髪されています。	体調や症状により時間や入浴方法・回数の増減もあるが、週に3回の入浴を誰もが気持ちよく楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に寝具を干したり。室温に気をつけて環境を整えています。ご様子に応じた休息をとって頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に目的・用法・用量を記入し、副作用については、カンファレンス等で話し合い、確認している。服薬チェックシートを活用し、何重にも確認する仕組みになっている。症状変化には十分に観察し報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居までの生活歴を大切に、又新しい取り組みも含め、支援している。晩酌・お気に入りのパン・洗濯たみ・台所仕事役割りを見つけ存在感を感じて頂く支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見には、ご近所に出掛け気候の良い時期には、近くの公園に出かけたり、海を見にドライブしたり楽しまれている。又ご家族や友人の支援を受け、外食・旅行・馴染みの店等に行かれている。	近くの寺院での花見や、庭でのバーベキューなど、みんなで楽しめる行事が年に2・3回行われている。また近隣の散歩や喫茶店などにも職員と出かけている。	

【事業所名】春風会きしグループホーム【ユニット名：1F】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週訪問してくれている移動販売にてカゴに品物を入れご自分でお金を払われています。ご自分でお金を所持されて安心感を得ている方も数名おられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からのお電話を取り次ぐことや、ご家族にお電話を掛けられる方もいらっしゃいます。ご自分の携帯電話をお持ちの方もおられます。年賀状やご家族からのお手紙が届く方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場には、季節の飾りをしたり、手作りのカレンダーを掲げたり、居心地の良い空間としてローカや玄関にソファを置いたり工夫しています。湿度や温度に配慮し、必要に応じて膝かけ等活用している。	南側には広い庭や畑もあり、季節を感じることができる。ソファの位置も工夫し、利用者が日々過ごしやすい空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいては、ソファの位置を検討し変更したり、窓際に椅子を置いたり、建物全てが居心地の良い空間となるよう職員皆で検討し常に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持って来られていたり、又ご家族の想いで選ばれた家具を使いやすく設置されたりご家族の写真やお飾っていたり、お仏壇をお持ちになったりご本人の居心地のよい空間となっています。	家具の設置や居室内の飾りで、入居者一人ひとりの個性が感じられ、その人にとっての馴染みのある落ち着きつろげる空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者の方々の状態や状況の把握を行いその方に適した支援を行い、出来るだけ自立した生活を安全に行えるように支援している。		